



\*\*2016年10月改訂(第8版)  
\*2011年7月改訂

麻薬拮抗剤

日本標準商品分類番号 872213

処方箋医薬品<sup>注1)</sup>

貯法：室温保存  
使用期限：外箱に表示の使用期限内に使用すること。  
(使用期限内であっても、開封後はなるべく速やかに使用すること。)

日本薬局方 レバロルフアン酒石酸塩注射液

**ロルファン<sup>®</sup>注射液 1mg**

**LORFAN<sup>®</sup> INJECTION 1mg.**

承認番号	薬価収載	販売開始
21800AMX10450	1961年12月	1961年1月

再評価結果1975年6月

**【禁忌】**(次の患者には投与しないこと)

- (1)呼吸抑制が緩徐な患者[無効である。]
- (2)バルビツール系薬剤等の非麻薬性中枢神経抑制剤又は病的原因による呼吸抑制のある患者[無効である。]
- (3)麻薬依存患者[禁断症状を起こすことがある。]

**【組成・性状】**

本剤は日本薬局方レバロルフアン酒石酸塩注射液である。

容 量	1 管 (1 mL)
有効成分	レバロルフアン酒石酸塩 1 mg
性 状	無色澄明の液
pH	3.0 ~ 4.5
浸透圧比(生理食塩液に対する比)	約 1

添加物：パラオキシ安息香酸メチル0.8mg、パラオキシ安息香酸プロピル0.1mg、塩化ナトリウム9mg

**【効能・効果】**

麻薬による呼吸抑制に対する拮抗

**【用法・用量】**

麻薬投与前後あるいは投与と同時に皮下、筋肉内、又は静脈内注射する。

投与される麻薬の種類、用法、用量等に応じて種々の投与方法を行うが、一般に次の投与方法が適当である。

**投与量比率**

レボルファン<sup>®</sup>ノール/レバロルフアン酒石酸塩 10 : 1

- 皮下又は静脈内注射
- 例……レボルファン<sup>®</sup>ノール 3 mg及び  
レバロルフアン酒石酸塩 0.3 mg

モルヒネ/レバロルフアン酒石酸塩 50 : 1

- 皮下又は静脈内注射
- 例……モルヒネ 15 mg及び  
レバロルフアン酒石酸塩 0.3 mg

アルファプロジン塩酸塩/レバロルフアン酒石酸塩 50 : 1

- 皮下又は静脈内注射
- 例……アルファプロジン塩酸塩 60 mg及び  
レバロルフアン酒石酸塩 1.2 mg

ペチジン塩酸塩/レバロルフアン酒石酸塩 100 : 1

- 筋肉内又は静脈内注射
- 例……ペチジン塩酸塩 100 mg及び  
レバロルフアン酒石酸塩 1 mg

**(1)産科的応用**

- 麻薬投与による母体及び胎児の呼吸抑制の予防  
レバロルフアン酒石酸塩はそれぞれ適当な比率で麻薬と同時に皮下あるいは筋肉内注射し、以後は必要に応じて30分以上の間隔で各1/2量を投与する。
- 分娩時麻薬によって起こる新生児の呼吸抑制の予防  
(レバロルフアン酒石酸塩を麻薬と併用していない場合)  
分娩前5~10分にレバロルフアン酒石酸塩1~2mgを静脈内注射する。

- 新生児の麻薬による呼吸抑制の治療  
分娩後直ちに臍帯静脈にレバロルフアン酒石酸塩0.05~0.1mgを注射する。

- 産婦の麻薬による呼吸抑制の治療  
(4)の用法・用量に準ずる。

**(2)補助薬として麻薬を用いた麻酔**

- 麻薬による呼吸抑制の治療  
レバロルフアン酒石酸塩0.5~1.5mgを静脈内注射する。

- 麻薬による呼吸抑制の予防  
レバロルフアン酒石酸塩を適当な比率で麻薬と共与、あるいは麻薬投与の4~6分前に静脈内注射する。

投与後の呼吸機能が十分であれば更にレバロルフアン酒石酸塩を投与する必要はないが、長時間にわたる手術あるいは麻酔終了時患者の呼吸機能が不十分であれば、更にレバロルフアン酒石酸塩0.4~0.6mgを1~数回投与する。

**(3)術前・術後又は内科での麻薬投与時**

術前・術後の疼痛緩解のため及び内科患者に麻薬を投与した時に起こる呼吸抑制の予防には、必要に応じ、適当な比率で麻薬と同時に皮下あるいは筋肉内注射する。

**(4)成人の麻薬過量投与による呼吸抑制の治療**

- 過剰量が不明の場合  
レバロルフアン酒石酸塩1mgを静脈内注射し、効果が現れれば更に必要に応じて3分間隔で0.5mgを1~2回投与する。

- 麻薬及びその過剰量がわかっている場合  
適当な比率で静脈内注射し、必要があれば次いで3分間隔でその1/2量ずつ1~2回投与する。

**【使用上の注意】**

**1.重要な基本的注意**

麻薬による著明な呼吸抑制の患者に投与する場合には、人工呼吸を行うなど、適当な処置を併せて行うこと。

**2.副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。(再審査対象外)

**(1)重大な副作用(いずれも頻度不明)**

- 1)反復投与した場合、効力が減少し、呼吸抑制を起こすおそれがある。
- 2)単独投与により、呼吸抑制を起こすことがある。
- 3)幻視、もうろう状態、見当識障害があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

**(2)その他の副作用(いずれも頻度不明)**

1) 眼	縮瞳、眼瞼偽下垂症
2)精神神経系	めまい、傾眠、発汗
3)胃 腸	悪心、嘔吐、胃部不快感
4)過 敏 症 <sup>注2)</sup>	過敏症状
5)そ の 他	不快感、蒼白、四肢重圧感

注2)このような場合には投与を中止すること。

注1) 処方箋医薬品：注意-医師等の処方箋により使用すること

### 3.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

### 4.小児等への投与

新生児仮死状態に投与した場合、易刺激性及び嘔泣増大傾向があらわれることがある。

### 5.適用上の注意

筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に注意すること。

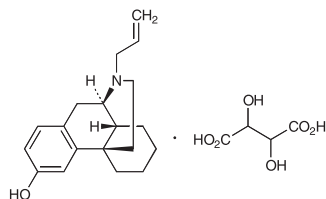
- (1)筋肉内注射はやむを得ない場合にのみ、必要最少限に行うこと。なお、特に同一部位への反復注射は行わないこと。また、低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児には特に注意すること。
- (2)神経走行部位を避けるよう注意すること。
- (3)注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。

### 【薬効薬理】

- 1.本剤は適量を用いることにより、麻薬の鎮痛効果にほとんど影響せず、麻薬の呼吸抑制作用を速やかに消失させる(ウサギ<sup>1)</sup>、ネコ<sup>2)</sup>、ヒト<sup>3)</sup>)。
- 2.効果は投与後1～2分で発現し(笑気-ペチジン塩酸塩による呼吸抑制患者)、その作用は2～5時間持続する。<sup>4-6)</sup>
- 3.本剤自体には鎮痛作用等、モルヒネ様作用はほとんど認められていない(マウス<sup>7)</sup>、ラット<sup>7)</sup>)。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

化学構造式：



一般名：レバロルファン酒石酸塩

(Levallorphan Tartrate) [JAN]

化学名：17-Allylmorphinan-3-ol monotartrate

分子式：C<sub>19</sub>H<sub>25</sub>NO · C<sub>4</sub>H<sub>6</sub>O<sub>6</sub>

分子量：433.49

融点：174～178℃

性状：レバロルファン酒石酸塩は白色～微黄色の結晶性の粉末で、においはない。水又は酢酸(100)にやや溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

### 【取扱い上の注意】

**【注意】**本品は「ワンポイントカットアンプル」を使用しているため、ヤスリを用いず、アンプル枝部のマーク(青)の反対方向に折り取ること。

### 【包装】

1 mg · 1 mL : 5 管

### 【主要文献】

- 1) Yim, G.K.W. et al : J. Pharmacol. Exp. Ther., **115** : 96, 1955.
- 2) Remien, J. et al : Z. Kreislaufforsch. Ger., **56** : 1207, 1967.
- 3) Sadove, M.S. et al : Postgrad. Med., **22** : 566, 1957.
- 4) 稲本晃他：麻酔, **10** : 204, 1961.
- 5) The Extra Pharmacopoeia, 28th, 1031, 1982.
- 6) 山村秀夫：実験治療, No.348 : 88, 1961.
- 7) Blumberg, H. et al : Pharmacologist, **9** : 231, 1967.

### \*\*\*【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献欄に記載の文献は下記にご請求下さい。

武田テバ薬品株式会社 武田テバDIセンター  
〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号  
TEL 0120-923-093

受付時間 9:00～17:30(土日祝日・弊社休業日を除く)

\*\*販売

**武田薬品工業株式会社**

大阪市中央区道修町四丁目1番1号

\*\*製造販売元

**武田テバ薬品株式会社**

大阪市中央区道修町四丁目1番1号